

「白山市教育大綱」策定に係る概要について

1 「白山市教育大綱」策定の必要性

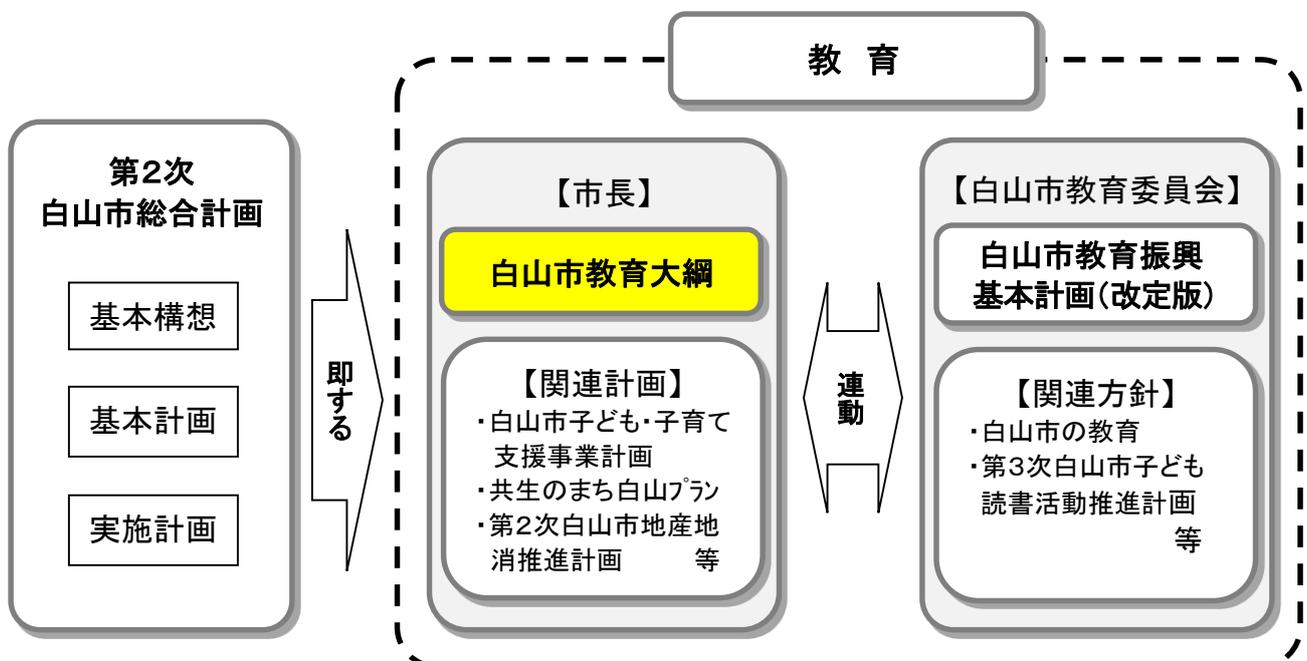
- ① 教育大綱の策定⇒市長が定める。【地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」)第1条の3第1項】
- ② 教育大綱策定の協議⇒総合教育会議で協議する。【地教行法第1条の4第1項】
- ③ 総合教育会議の構成⇒市長及び教育委員会【地教行法第1条の4第2項】
- ④ 教育大綱の定義

・大綱は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策について策定することを求めているものではない。

・大綱が対象とする期間については、法律で定められていないが、4～5年程度を想定しているものである。

2 白山市教育大綱の位置付けと期間

【大綱の位置づけ】



【大綱の期間】

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度

一部見直し

3 策定までのスケジュール

年 月 日	事 項
令和元年 6 月 4 日(火)	第 1 回白山市教育大綱策定作業部会
7 月 2 日(火)	第 2 回白山市教育大綱策定作業部会
7 月 1 9 日(金)	第 3 回白山市教育大綱策定作業部会
7 月 3 1 日(水)	第 1 回白山市総合教育会議 次期「白山市教育大綱」作業部会（案）について概要説明
8 月～1 1 月	次期「白山市教育大綱」作業部会による修正
9 月～1 1 月	総合教育会議の構成員（市長、教育委員会）による修正
1 2 月中旬	市議会文教福祉常任委員会 次期「白山市教育大綱」（素案）について概要説明
1 2 月下旬	市議会全員協議会 次期「白山市教育大綱」（素案）について概要説明
令和 2 年 1 月中旬	パブリックコメントの実施
1 月下旬	第 2 回白山市総合教育会議 次期「白山市教育大綱」の決定
3 月中旬	市議会文教福祉常任委員会 次期「白山市教育大綱」について概要説明
3 月下旬	市議会全員協議会 次期「白山市教育大綱」について概要説明

基本理念・基本目標

基本理念

ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり

基本目標

郷土愛を育む教育の推進

確かな学力の形成と教育環境の整備

健康な心と体を育む教育の推進

教育施策の内容

1：郷土愛を育む教育の推進

- ① 白山手取川ジオパークの資源など郷土の魅力、ふるさとの歴史、先人の功績、自然や文化の素晴らしさを学び、白山市への愛着を深める教育を推進します。
- ② 公民館を拠点とした生涯学習事業の更なる充実を図るとともに、地域住民が主体となった様々な活動を推進します。
- ③ 家庭・学校・地域が支え合い、防災活動などをおして、ふるさと白山市を守っていく人材育成を推進します。
- ④ 図書館などの施設を充実し、ふるさと白山市で生涯をとおして学ぶことができる環境づくりを推進します。
- ⑤ 国際化、グローバル化の中にあって、情報教育の一層の推進を図るとともに、市民が多様な考えに触れ、価値観を認め合う教育環境づくりを推進します。

基本理念・基本目標

基本理念

ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり

基本目標

郷土愛を育む教育の推進

確かな学力の形成と教育環境の整備

健康な心と体を育む教育の**充実**

教育施策 **⇐連動⇒** SDGs の理念に沿った取組の推進

修正



1：郷土愛を育む教育の推進

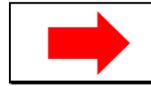
- ① 豊かな自然をはじめ郷土の歴史や先人の功績、伝統文化や産業を学ぶことを通して、ふるさとへの理解と愛着を深める教育を推進します。
- ② 世界に誇る地域資源をもつ白山手取川ジオパーク・白山ユネスコエコパークの理解を深める教育や学習の機会を充実し、持続可能な社会・地域づくりを推進します。
- ③ 学びの核となる社会教育施設での幅広い分野の生涯学習事業を充実するとともに、地域住民が主体となった**笑顔輝くまちづくり**を推進します。
- ④ 家庭・学校・地域が支え合い、**地域とともにある学校づくり**などを進めるとともに、**市民協働による**防災活動などを通して、ふるさと白山市を**誇りに思い**守っていく人材育成を推進します。
- ⑤ **市立図書館や学校図書館などでの学習機会や機能を**充実し、生涯を通して**ふるさとで**学ぶことができる環境づくりを推進します。
- ⑥ 国際化、グローバル化が**進展する**中であって、**外国語教育**や情報教育の一層の**充実**を図るとともに、市民が多様な考えに触れ、価値観を認め合う教育環境づくりを推進します。

2：確かな学力の形成と教育環境の整備

- ① 小学校就学へのスムーズな連携を図るための就学前教育・保育の充実、在宅児童や保護者への支援の充実に取り組みます。併せて、小中学校の連携を推進し、一貫性のある学校教育の充実に取り組みます。
- ② 子どもたちが知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育み、一人ひとりの個性に応じた確かな学力を形成できる学校教育を推進します。
- ③ コミュニケーション能力を育むとともに、成長段階に応じたキャリア教育の機会を大切にし、夢や目標に向かい主体性や創造性を持って行動できる子どもを育成します。
- ④ 教職員の資質、指導力の向上を図るとともに、いじめ・不登校などの問題に適切に対応するため、保護者・地域の方々との連携強化や専門スタッフの配置など学校の教育力、組織力の向上を目指します。
- ⑤ 子どもたちの命を守り、安全な環境の中で生活が送れるよう、ハード面では学校施設の長寿命化など安全安心な教育環境の整備、ソフト面では危機管理体制の確保、防災教育などを推進します。

3：健康な心と体を育む教育の推進

- ① 自然体験活動や文化・芸術へのふれあいを推奨し、豊かな感性を育むことができる教育を推進します。
- ② 道徳教育の充実を図り、「思いやり」「感謝の心」「命の尊さ」「自然への畏敬の念」を育む教育を推進します。
- ③ 安全安心な食とともに、地産地消などの食育の機会をとおして、ふるさとの恵みの大切さを認識できる教育を推進します。
- ④ 健康を維持・向上する体力づくりを推奨し、生涯にわたりスポーツとふれあえる環境づくりを推進します。
- ⑤ スポーツの意義や価値に対する理解や関心を深め、競技スポーツのレベル向上と人材育成に取り組みます。



2：確かな学力の形成と教育環境の整備

- ① 小学校就学へのスムーズな連携を図るための就学前教育・保育の充実、在宅児童や保護者への支援の充実に取り組みます。併せて、小中学校の連携を推進し、一貫性のある学校教育の充実に取り組みます。
- ② 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むため、確かな学力や社会の変化に主体的に対応できる能力を高める学校教育を推進するとともに、教職員の資質・指導力の向上を図ります。
- ③ コミュニケーション能力や問題解決能力を育むとともに、成長段階に応じたキャリア教育の機会を大切にし、夢や目標に向かい主体性や創造性を持って行動できる子どもを育成します。
- ④ いじめ・不登校、配慮を要する子どもたちへの支援などの問題に適切に対応するため、保護者・地域の方々との連携強化や専門スタッフの配置など学校の教育力、組織力の向上を目指します。
- ⑤ 子どもたちの命を守り、安全な環境の中で生活が送れるよう、ハード面では学校施設の長寿命化など安全安心な教育環境の整備、ソフト面では危機管理体制の確保、防災教育などを推進します。

3：健康な心と体を育む教育の充実

- ① 道徳教育の充実を図り、「思いやり」「感謝の心」「命の尊さ」「自然への畏敬の念」を育む教育を推進します。
- ② 「もったいない」や「お互い様」など、心豊かな価値観を育むための機会やきっかけを提供するとともに、様々な体験活動への参加や文化・芸術へのふれあいを推奨し、感性豊かな心の育成を推進します。
- ③ 子どもの権利の保障について、普及啓発に努めるとともに、子どもの権利を守るため、あらゆる相談に対応できる体制の充実を図ります。
- ④ 安全・安心な学校給食を提供するとともに、地産地消などの食育の機会を通して、ふるさとの恵みに感謝し、健康で豊かな心を育む教育の充実を図ります。
- ⑤ 健康増進と体力向上を図るため、だれもが元気で生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの充実を図ります。
- ⑥ スポーツの楽しさや喜び、大切さを学ぶことを通じて、スポーツへの理解と関心を深め、競技スポーツのレベル向上と人材育成に取り組みます。

令和元年7月31日
第1回総合教育会議 資料2

白山市 SDGs 未来都市計画

白山の恵みを次世代へ贈る「白山市SDGs未来都市ビジョン」

白山市

< 目次 >

1 全体計画

1.1 将来ビジョン

- (1) 地域の実態.....2
- (2) 2030年のあるべき姿.....5
- (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール.....7

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

- (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の概要.....9
- (2) 自治体SDGsの情報発信・普及啓発策.....12

1.3 推進体制

- (1) 各種計画への反映状況.....14
- (2) 行政体内部の執行体制.....16
- (3) ステークホルダーとの連携.....18

1. 全体計画

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

(地域特性)

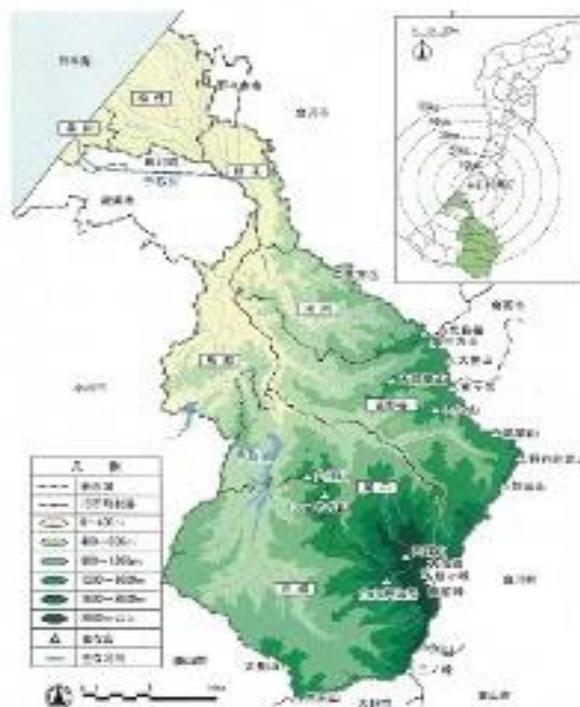
白山市は、平成 17 年 2 月 1 日に 1 市 2 町 5 村が広域合併して誕生し、県内最大の面積(754.93 km²)を持つ自治体である。県都金沢市に隣接し、日本三名山の一つ白山を有し、白山から日本海までを繋ぐ一級河川手取川は、長い時間をかけて大量の土や砂を運び、加賀平野の中央部に広大な扇状地をつくり上げた。この手取川流域に広がる扇状地を含む市域は豊富な自然と美しい景観に恵まれており、かつ、積雪量が多いことから特別豪雪地帯に指定されている山間部など、市内でも自然環境等の違いがあることから、地域ごとに独特の伝統文化や生活様式が色濃く残されている。

人口は、平成 30 年 5 月末時点では 113,447 人(住民基本台帳人口)となっており、産業別就業者数については、平成 27 年国勢調査によれば、1次産業が 1,643 人(2.93%)、第2次産業が 18,243 人(32.55%)、第3次産業が 36,160 人(64.52%)となっている。これまで 17 か所の工業団地を整備し、白山からの豊富な水資源や強固な地盤、安価な電気料金、整備された交通網等をセールスポイントに、積極的に企業誘致を進め、本市の基幹産業である機械や電子部品を中心に製造品出荷額(5,835 億円)及び従業者数(18,694 人)は、ともに県内2位である。(平成 28 年工業統計)

また、石川県内には学校数全国2位(10万人あたり)を誇る20の高等教育機関があり、そのうち本市には、金沢工業大学、国際高等専門学校(平成 30 年 4 月開校)、金城大学、金城大学短期大学部が集積しており、新たに(仮称)金沢専門職大学(設置構想中)の開校も予定されている。

白山ユネスコエコパーク(1980 年登録)や 2011 年に日本ジオパークに認定されている白山手取川ジオパークなど、世界に誇る自然環境や地域で受け継がれてきた文化が存在し、エコツーリズム等の観光スポットともなっている。長い年月をかけて地中を流れる伏流水は、酒づくりにも最適で、また、豊富な地下水が呼び水となり、手取川扇状地に多くの企業が進出するなど、白山の水は人々の暮らしに大きな恩恵を与えている。

<白山市の全景と位置図>



(別添:参考資料1)

(今後取り組む課題)

高度成長期と共に目まぐるしい経済成長を遂げたことにより、人々の価値観が「経済」に偏りすぎの中で、社会活動の拠点が平野部の都市へと移行し、平成 17 年の合併以後、平野部の人口は増加傾向にあるものの、山間部では2割以上の人口減(平成 30 年 5 月現在 5,800 人)となっている。また、平野部と山間部では、年少人口割合が平野部で 14.7%、山間部で 8.5%、老年人口割合が平野部で 25.6%、山間部で 46.7%(平成 27 年国勢調査)となっており、地域間の格差は広がり、市民の一体感が生まれにくい状況下にある。

さらに山間部では、人口減少と高齢化による過疎化に伴い、自然環境が放置され、サルやイノシシによる鳥獣被害が増加し、その被害額も平成 29 年の 1 年間では 400 万円超となり、前年度に比べ4倍増となっている。2015 年 5 月に手取川源流部での大規模な地すべりが発生し、高濃度の濁水は下流の農地・水田、海域の水産業に大きく影響をもたらしたほか、2014 年 4 月と 2015 年 6 月には、地域経済や生活を支える唯一の幹線道路である国道 157 号線(東二口地内)で法面が崩落し、一時通行止めになり、その脆弱性が浮き彫りになるなど、土砂災害による新たな課題が発生し、その課題解決には予算を投入し続けているものの、根本的な解決に至らない状況にある。

かつては、山間部のみならず平野部を含む白山周辺一帯で、白山の水の恵みを受けて生活する多くの人々が「白山の水をいただく」という感覚で山を仰いで感謝の祈りを捧げてきた時代があった。今一度、白山市民が一体となって、「次世代の価値観」を醸成し、「経済」「社会」「環境」が調和し、特に女性の活躍により、地域が発展し続ける次世代の都市の循環を、世界基準で再形

成しなければならない。

本市では、このような課題に対し、SDGsの視点に基づく取組の必要性を認識し、全庁横断的かつ効果的に推進するため、2018年3月19日に市長を本部長とする「白山市 SDGs推進本部」を設置し、全部局でSDGsの取組を推進していくこととしている。

2013年5月に白山市と包括的な連携協定を締結した金沢工業大学は、2018年4月には本市の山間部に白山麓キャンパスを開設した。金沢工業大学では、「自ら考え行動する技術者の育成」を教育目標に掲げ、2年前に新たに就任した大澤敏学長が、「世代・分野・文化を超えた共創教育研究の推進」という新たなビジョンを打ち出しており、大学の新たなブランディング事業の一環として、新設される白山麓キャンパスに産学官民連携の拠点「KIT イノベーションハブ」を設置すると共に、学長自らが所長を務める「地方創生研究所」を開設した。

2017年末には、SDGs推進センターを設立するとともに、これまでの社会と連携した教育研究やASEAN諸国との大学連携による教育研究を推進してきた成果が認められ、「第1回「ジャパンSDGsアワード」において、SDGs推進副本部長(内閣官房長官)賞を受賞しており、大学全体でSDGsの推進に尽力している金沢工業大学との包括的な連携協定を基盤とし、白山市SDGs未来都市の実現に向け取り組んでいく。

(2) 2030年のあるべき姿

開山 1300 年を迎えた白山の歴史・文化と豊かな自然環境の恩恵を、全ての市民や組織が実感し、白山手取川ジオパーク及び白山ユネスコエコパークの理念に基づいて、山間部において経済発展や豊かな生活を実現し、その成果を白山市全体に還元するサイクルの確立を目指す。本市における QOL を「持続可能な社会を自らの手によって作り上げることを実感する」と位置づけ、その QOL の源でもある、市民一人ひとりの主体的な「学び」「成長」「挑戦」から、「経済」「社会」「環境」を調和するエコシステムを市民参画のもと一体感をもって構築する。

1 女性や全ての市民が活躍する教育先端未来都市のコアコンピタンスエリアとなる「白山ソサエティ」

子供から大人まで全ての市民が、山間部の白山ろく地域が抱える社会課題解決をミッションとして持ち、白山ろく地域の方々すべてに対して SDGs 教育が展開され、自らが主体的に学び実験を繰り返す文化が醸成されている。平成 30 年に完成した金沢工業大学の白山麓キャンパスを拠点に、アート、サイエンス、エンジニアリング、デザインを横断した世代・分野・文化を超えた共創教育の場が構築され、白山ろく地域全体が企業や市民による社会課題解決の実証実験の場となっている。

この「白山ソサエティ」では、女性が家庭や子育てを両立させながら仕事に活躍できる場が構築されており、多くの企業が SDGs の目標の一つである、ジェンダー平等の実現に対し、共通の理解を持ち、データ利活用のスキルの長けた女性を多様な雇用形態の元、様々な形で社会での活躍がある。また、多くの女性が山間部から流出しなくなったことにより、これまでの減少していた山間部の人口に歯止めがかかっている。

この状況が、課題先進国日本における「辺境の地から次世代の都市を創造する地」として、ASEAN 諸国の大学や自治体関係者から注目され、市外・国外の地域の人々を対象とした視察・滞在による「白山ソサエティ」の仕組みを学ぶ研修プログラム、さらには ASEAN 諸国からの留学生が数多く訪れている。

2 子育て環境の充実と働き方改革を両立する白山里山ボーディングスクール

山間部と平野部を繋ぎ、子育て環境の充実と働き方改革を両立する「里山ボーディングスクールシステム」が導入されている。このスクールシステムは、平野部における共働き夫婦や女性に、「社会進出の学習機会の提供」と「山間部における子供向けの教育先進エリアでの充実した学習機会の提供」の両立を図るものである。平日は家族がそれぞれの生活拠点で学び・働き、週末は家族が一体となって過ごすといった、地域全体で子供たちの成長と、子育て等で社会への参画が困難であった女性の社会進出の推進による生産性向上に取り組む社会システムが展開されている。

3 産学官民共創による挑戦が日常に！SDGs プロジェクト

自然環境及び生活環境等のデータを集約した、未来都市のデータレイクが構築され、IoT・BD・AI・ロボットの先端技術を有している企業が白山ろく地域に集結している。各企業においては、社団法人の下で市民や学生も参画しながら産学官民連携による「SDGs プロジェクト」が推進されている。プロジェクトの運営資金については、自律的好循環による未来都市に賛同する企業や個人から寄せられる寄付や納税によって担保され、取り組まれた成果は国内外に発信され新たな賛

同者を招く循環が構築されている。

4 全ての市民がまちづくりに参画する協働と共創のまち

未来都市のコアとなる白山ろく地域「白山ソサエティ」では、自治運営の一端を、女性・子供・高齢者・障害者など全ての市民によって繰り広げられている。SDGs プロジェクトの成果により、地域コミュニティの運営、地域の安全・安心、環境美化、といった日常的な自治運営に加え、鳥獣害対策や健康寿命の延伸、さらには防災・減災対策等にも市民一人ひとりが能動的に参画し、地域住民全体によるまちづくりが実現されている。

5 白山手取川ジオパークが世界認定！

2011年9月に日本ジオパークに認定された白山手取川ジオパークの取組が、ユネスコ世界ジオパークに認定されている。とりわけ、IoT・BD・AI・ロボット技術を駆使した環境保全や教育実践の取組が市民に展開され、市民参画のもと大地と自然と人の物語が共有され、持続的な取組が可能な状況となっている。

6 平野部及び海岸部における産業のリスク軽減(データによるリスク管理能力の向上)

世界ジオパークの認定に基づいた山間部の発展による自然環境の維持が、平野部及び海岸部における産業のリスクを軽減している。とりわけ、白山の水域を中心とした自然の恵みを活用する一次産業や、二次産業において、自然環境の状況をデータを通じて常に把握できる仕組みが構築されることにより、これまでの手取川上流の土砂災害による濁水といった被害に対するリスク管理能力が向上し、生産性向上が実現されている。

7 山間部から平野部への技術・スキル移転による生産性向上

「白山ソサエティ」における SDGs プロジェクトの成果から生まれた新たな技術が平野部に移転され、新たな産業創出や高度な生産性向上を実現している。とりわけ、「白山ソサエティ」で創出された技術やソリューション、さらにはデータ活用といったスキルの習得を図る学習機会を市民(特に女性)に対して提供することにより、平野部の企業において女性が生産性向上のキーパーソンとして活躍している。

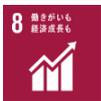
8 ASEAN 諸国留学生を軸とした国を超えた地域間の支え合い

ASEAN 諸国からの留学生が多数訪れ、その留学生の関係者が「白山ソサエティ」に観光等で訪れ、市民参画のコミュニティの充実度を実感する。留学生は「白山ソサエティ」におけるコミュニティを充実する仕組みについて理解を深め、そのスキルを自国に戻って活かすことにより、「白山ソサエティ」の展開が可能となっている。国を超えた支え合いの仕組みが確立されている。

この様に、2030年においては、本市の SDGs 未来都市のコアコンピタンスとなる「白山ソサエティ」が白山ろく地域に確立され、その未来都市のエコシステムが、人材スキルと技術を中心に平野部へと展開され、さまざまな社会課題を解決する循環をもたらしている。また、この「人間形成」と「技術革新」の循環による持続可能な次世代都市の再構築のプロセスが、経済を中心に目まぐるしく発展を遂げようとしている ASEAN 諸国にとっての大きな気づきとなり、「経済」「社会」「環境」が調和された、都市再構築のモデルが各国へと展開されている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI		
 8 豊かになり 経済成長も	8, 2	指標:「白山ソサエティ」への進出・参画企業数	
	8, 5	<table border="1"> <tr> <td>現在(2018年7月): 0社</td> <td>2030年: 50社</td> </tr> </table>	現在(2018年7月): 0社
現在(2018年7月): 0社	2030年: 50社		
 4 質の高い生活を みんなに	4, 4	指標:「白山ソサエティ」進出・参画企業が雇用または事業を委託する白山市在住の女性の人数	
	5, b	<table border="1"> <tr> <td>現在(2018年7月): 0人</td> <td>2030年: 500人</td> </tr> </table>	現在(2018年7月): 0人
現在(2018年7月): 0人	2030年: 500人		
 5 ジェンダー平等を 実現しよう			

教育先端未来都市のコアコンピタンスエリアである白山ろく地域「白山ソサエティ」には、最新の通信技術によって、自然環境や市民のライフログ等、都市の物理的なデータにより構築されたデータレイクは、OPEN データとして、産学官民共創による社会課題解決の実証実験に活用されており、全ての市民が学習・成長・挑戦する環境が整備されている。そこで創出された新たなソリューションは社会で実装されており、平野部にも活用のためのノウハウが展開されている。この環境を求めて多くの企業が進出、また、平野部の企業が参画しているとともに、家庭と仕事を両立しつつデータ利活用のスキルを身に付けた女性が活躍しているという2030年のあるべき姿が実現している。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI		
 4 質の高い生活を みんなに	4, 3	指標:子供、女性、高齢者、障害者、介護者等が自治運営に参画し、企業と社会課題を解決するソリューション件数	
	4, 7	<table border="1"> <tr> <td>現在(2018年7月): 0件</td> <td>2030年: 20件</td> </tr> </table>	現在(2018年7月): 0件
現在(2018年7月): 0件	2030年: 20件		
 5 ジェンダー平等を 実現しよう	5, c	指標:「白山ソサエティ」における子育て支援事業の利用件数	
	11, a	<table border="1"> <tr> <td>現在(2018年7月): 0件</td> <td>2030年: 50件</td> </tr> </table>	現在(2018年7月): 0件
現在(2018年7月): 0件	2030年: 50件		
 11 住み続けられる まちづくりを			

教育先端未来都市のコアコンピタンスエリアである白山ろく地域「白山ソサエティ」では、全ての

市民が、山間部の白山ろく地域が抱える社会課題解決をミッションとして持ち、白山ろく地域の方々すべてに対してSDGs教育や、自然を保護・活用するジオパーク・ユネスコエコパークの理念を共通認識として持ち、自らが主体的に学び実験を繰り返す文化が醸成されている。さらに、各国の学生が集い、現地滞在型によって社会課題解決に取り組むラーニングエクスプレスが実践され、地域の市民にも展開されている。

また、山間部と平野部を繋ぎ、子育て環境の充実と働き方改革を両立する「里山ボーディングスクールシステム」が導入されており、平野部における共働き夫婦や女性に、「社会進出の学習機会の提供」や「山間部における子供向けの教育先進エリアでの充実した学習機会の提供」がなされている。このような子育て支援事業により、地域全体で子供たちの成長を見守りつつ、子育て等で社会への参画が困難であった女性が社会進出しやすい社会システムが展開されているという2030年のあるべき姿が実現している。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 15, 4	指標: ITやAI、ロボット技術を活用した生態系の保全活動の市民参画数	
	現在(2017年1~12月): 0人	2030年: 年間延べ100人
	指標: 鳥獣による農作物被害額	
	現在(2017年1~12月): 412万円	2030年: 50万円
 13, 1	指標: 収集したデータ活用による自然災害未然防止件数	
	現在(2018年7月): 0件	2030年: 10件
 15, 2		

教育先端未来都市のコアコンピタンスエリアである白山ろく地域「白山ソサエティ」では、全ての市民が、山間部の白山ろく地域が抱える社会課題解決をミッションとして持ち、産学官民共創により、自然と共存している地域ならではの社会課題に取り組んでおり、ITやAIやロボット技術の活用による生態系の保全活動、鳥獣被害の防止対策及び人の立ち入り困難な森林において間伐等が行われ、持続可能な森林環境の整備がされている。また、市民をはじめ、自然の恵みを活用する一次産業、二次産業においては、自然環境の状況をデータを通じて把握し、大雨や台風被害に対するリスク管理能力が向上しているという2030年のあるべき姿が実現している。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組の概要(2018～2020年度の取組)

①「白山ソサエティ」の創出

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 4	指標:「白山ソサエティ」への進出・参画企業数	
	現在(2018年7月): 0社	2020年: 10社
 8, 2		

「白山ソサエティ」全体の環境データの収集を行う為のIoT等通信網を整備すると同時に、水域・森林・生活空間にセンサーやカメラ等のデータ収集デバイスを設置することで、白山未来都市のデータレイクを構築し、データを活用した都市ソリューションを創出する企業を呼び込み、市民や大学の参画を含めたSDGsプロジェクトの実践を通じてSDGs未来都市に適用可能なソリューションを創出する。

② 産学官民の共創

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 3	指標: 指標: 子供、女性、高齢者、障害者、介護者等が自治運営に参画し、企業等と社会課題に取り組む件数	
	現在(2018年7月): 0件	2020年: 10件

企業が取り組むソリューションの創出に市民・学生が参画する「SDGsプロジェクト」を発足し、健康寿命延伸や一次産業の生産性向上といったテーマに基づいた社会実践および実装の為の体制を構築するとともに、IoT・BD・AI・ロボット技術に関する最新の技術の動向やデータを活用した様々な社会課題解決に用いられるソリューションについて、座学及びハンズオン形式で学ぶ学習機会を全市民に対して提供し、産学官民共創で地域の社会問題の解決に取り組む。

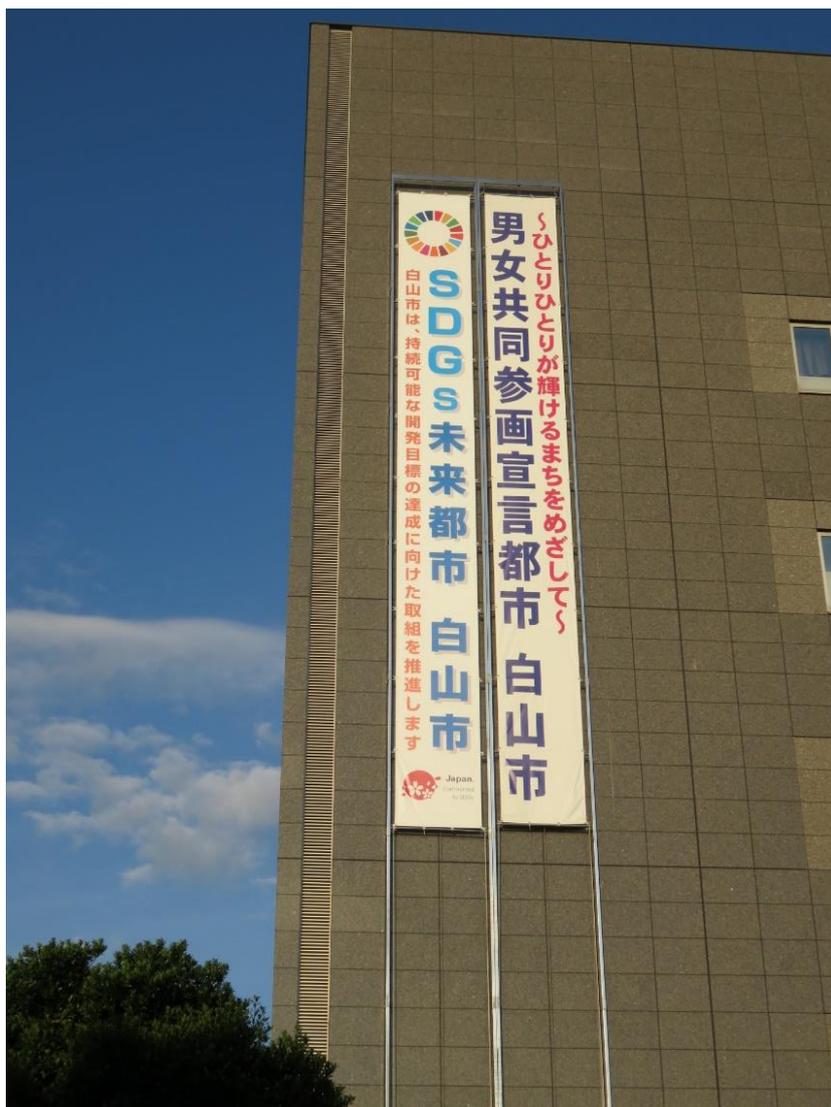
また、金沢工業大学との連携により、各国の学生が集い、現地滞在型によって社会課題解決に取り組むラーニングエクスプレスに、白山手取川ジオパーク推進協議会が取り組んできた教育の実績を関連させ、ASEAN諸国との市民レベルでの交流が深まりとともに、自然環境の保全および活用が推進され、白山手取川ジオパークの世界的価値が高まる。

③ 女性の社会進出の礎

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 4 質の高い教育を みんなに	4, 4	指標: データ活用学習の女性の受講人数	
		現在(2018年7月): 0人	2020年: 50人
 5 ジェンダー平等を 実現しよう	5, b		
 8 働きがいも 経済成長も	8, 5		

データ活用スキルを有した女性の活躍を目指すため、金沢工業大学と連携し、家庭や地域で多忙を極める環境を配慮した育成計画を策定し、方針を定めた上で、女性が学習しやすい環境整備を図る。金沢工業大学における学部の教養教育や問題発見解決型教育に AI 等のデータ活用技術を盛り込んでいる教育実践のノウハウを活用し、本市全てのエリアの中で、女性を対象とした SDGs に関する知識修得を図る機会と、データ活用を推進する学習機会を継続的に提供する。組織に所属する女性社員や、自宅で子育て等によって社会への参画が難しいとされる方、さらには子供が育ち新たに社会参画を望んでいる方々等を対象に、自然言語等を扱うテキストマイニングを活用するスキルを提供する。

働き方改革が推進される中において、組織内に蓄積される膨大なテキストデータを、組織の生産性を高めることや価値創造につなげることが求められる中で、SDGs への理解を深めかつ、テキストマイニングのスキルを有した女性の方が、山間部から平野部・海岸部に所在する組織やコミュニティに参画することで、SDGs の普及促進およびデータ利活用スキルを身に付けた女性の社会進出に向けた礎を築く。



<SDGs未来都市および男女共同参画宣言都市の懸垂幕>
白山市民交流センター

(2) 自治体 SDGsの情報発信・普及啓発策

(域内向け)

【職員及びステークホルダーが一体となった白山市 SDGs の PR】

SDGs に深く携わる本市の職員をはじめ、パートナーである金沢工業大学や連携企業の方々の名刺に「SDGs のロゴ」を入れることや、SDGsピンバッジを身に付けるなど、本市が取り組む SDGs の取組を PR すると共に、参画および普及促進を図る。

【白山市経済団体や地域 NPO との連携による情報発信・普及啓蒙】

地域に根差したコミュニティや企業との連携を強化し、これまで各コミュニティが実施してきた男女共同参画事業や働き方改革推進事業との連携を通じて、データ活用を基盤とした普及促進を行う。

【石川県中央都市圏への情報発信】

連携中枢都市圏として、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点として形成された石川中央都市圏の構成市町である金沢市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町に本市のSDGsの取り組みを情報発信するとともに普及促進を図る。

(域外向け (国内))

【日本ジオパークネットワークを通じた情報発信・普及啓発】

白山手取川ジオパーク推進協議会が中心となり、国内のジオパークを推進する自治体との連携を通じて取組成果の共有を図る。

【地方版 IoT 推進ラボを通じた情報発信・普及啓発】

経済産業省が推進する地方版 IoT 推進ラボに本市も選定をされている。「SDGs プロジェクト創出」は、本市の地方版 IoT 推進ラボの取組とも連動することから、中部経済産業局が取りまとめる中部地区の事務担当者推進会議や全国の事務担当者会議の場からの情報発信はもとより、これらの会議を通じて得られた他の自治体との連携から、本市における SDGs の取組成果を発信・共有していく。

石川県内においては、石川県をはじめ、加賀市、かほく市も地方版 IoT 推進ラボの選定を受けている。石川県を中心にその取り組み成果や事業の進捗等について共有を図る体制が構築されていることから、県内への展開についてはその体制の中で SDGs 推進の取組についても共有していく。

【文部科学省地方創生関連事業を通じた情報発信・普及啓発】

文部科学省が地方創生の観点から教育研究の推進を図る COC 事業や COC プラス事業に金沢工業大学が選定されており、その推進の中で関係を構築した地域に根差した大学との連携からも、官学連携による SDGs の取組成果を共有していく。

さらに、SDGs プロジェクト創出に参画する企業の中で SDGs の取組を推進する企業からも、本事業全体の取組と関連付けて情報発信を行う。

(海外向け)

【金沢工業大学白山麓キャンパスにおける「CDIO」国際会議の開催】

「白山ソサエティ」の自然環境や生活環境を含む全体をキャンパスと捉え、産官学民の共創による SDGs プロジェクトの推進について、国内外の企業や大学関係者と共有を図るために、2018 年

に金沢工業大学にて「CDIO 国際会議」を開催する。「CDIO」とは、Conceive(考え出す)、Design(設計する)、Implement(実行する)、Operate(操作・運営する)の略で、工学教育の改革を目的として開発された考え方であり、MIT やスタンフォード大学など 36 か国、130 以上の高等教育機関が加盟し、工学教育の事実上の世界標準となっている。今回は「工学教育における革新 (Innovations in Engineering Education)」をメインテーマに開催する。

【白山麓キャンパスにおける「ジャパン SDGs サミット」の開催】

SDGs ビジネスに率先して取り組む中小企業や日本の地方企業が培ってきた地域と企業が支え合う仕組み、さらには、それを継承していくための取り組みについても焦点を当てる。日本の地方創生・中小企業が SDGs の地球規模での達成に果たす役割を確認することを目的に、「ジャパン SDGs サミット 2018」を金沢工業大学白山麓キャンパスで開催する。このサミットを通じて、日本中の SDGs に関する知見を地方に集め、世界へ発信する。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映状況

【第2次白山市総合計画】

「第2次白山市総合計画」では、まちづくりの目標ごとに SDGs の17の目標との照合を行い、各部局において、SDGs の視点に基づき施策の展開を図っていくこととしている。総合計画の基本構想で示した7つのまちづくり目標(*)を実現するための各施策の事業評価を行っており、事業見直しに際しては、SDGs推進の視点をより反映させる。

また、総合計画と併せ、本市の上位計画となる「国土強靱化地域計画」を平成30年度中に策定することとしており、SDGs の取組を反映させ、強靱な地域づくりを進める。

(*)本市の将来都市像の実現に向けて、基本理念である「健康」「笑顔」「元気」のもと、分野別に7つのまちづくりの目標を設定し、施策を展開している。

- ・目標1 「誰もが健康でいきいきと暮らし続けられるまちづくり」
- ・目標2 「地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり」
- ・目標3 「人と地域の交流で笑顔が生まれる市民主体のまちづくり」
- ・目標4 「市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり」
- ・目標5 「賑わいと活力がみなぎる元気なまちづくり」
- ・目標6 「自然・歴史・文化と人が交わり元気に輝くまちづくり」
- ・目標7 「市民の信頼に応えるまちづくり」

【白山市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

「白山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成30年8月に改訂し、SDGsの理念を意識して、本市の持続的発展(Sustainable Development)の実現を目指し、取組の推進を図ることとした。

【その他計画】

市総合計画の主要施策に、SDGsの理念に沿った「女性が活躍できる社会の推進」を掲げており、取組を推進していくこととしている。

さらに、「第2次白山市男女共同参画行動計画」及び「白山市子ども・子育て支援事業計画」において、女性の活躍できる環境づくりや子育てしやすい環境づくりの推進、多様で柔軟な働き方等を通じたワーク・ライフ・バランスの推進を掲げており、引き続き、効果検証、見直しを行いながら、計画に反映し、取組を推進する。

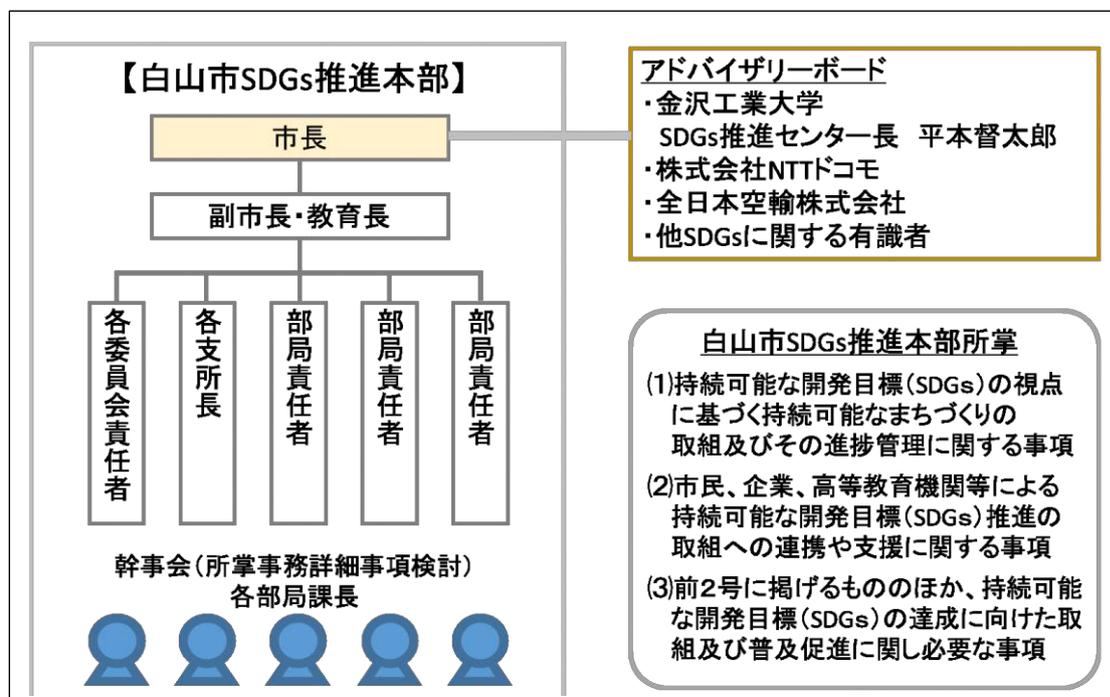
また、市総合計画、市まち・ひと・しごと創生創業戦略、市環境基本計画における主要な施策として、ジオパークの活動の推進を掲げており、学校教育・生涯学習・防災学習を通じた、地域づくりの推進、地域遺産の保護、ジオパークによる教育活動、ツーリズムの活性化など、ジオパークによる持続可能な取組を進めている。

(2) 行政体内部の執行体制

白山市総合計画に基づいて、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取組について、全庁横断的かつ効果的に推進するため行政体内部に市長を本部長とする「白山市 SDGs 推進本部」を平成30年3月に設置し、SDGsの視点に基づいて、各施策の展開を図っていくこととしている。

また、市・市民・企業等と連携した取組が大変重要であることから、SDGsの理念について、普及啓発等を行い、市全体に広がることに努め、一体となった取組を図ることとする。

<白山市 SDGs 推進本部体制図>



【構成員】

市長を本部長とし、副市長及び教育長を副本部長としている。金沢工業大学をはじめとする高等教育機関との連携が重要になることと、市民が学び・成長し・挑戦するステップアップが本市QOLのコアコンピタンスとなることから、教育長を副本部長に位置づけている。

本部員には、各部局の部長、各種委員会の事務局長を加え、部局横断的な横串による課題解決に努め、自治体内部の執行体制においても、レバレッジを効かせることができることが重要であり、また、市民参画の視点を重視することや、市内の各セクターが抱える課題の異なりを含めた共創を積極的に推進するために、地域の支所長、サービスセンター長が参画している。

また、企画振興部長を幹事長とする、幹事会を設置し、各部署の課長が参画し、組織の枠組みを超えたSDGs事業の推進を図る。

【アドバイザーボード】

本事業を推進するにあたり、推進本部の諮問委員会的機能を果たす、アドバイザーボードを設置する。アドバイザーボードの代表には、金沢工業大学 SDGs 推進センター長の平本督太郎講師が就任し、金沢工業大学が取り組む SDGs 事業との連携を図る体制を構築する。また、核となる技術やソリューションを有する株式会社 NTT ドコモや全日本空輸株式会社をはじめ、カンボジアでアグロフォレストリーによる SDGs ビジネスを推進しているフロムファーイーストの坂口氏、ハーバードのデザイン大学院にてランドスケープを専攻し、県内において生物多様性を重視した里山づくりに取り組んでいる三島氏といった、森林経営の専門家等の SDGs に長けている有識者を今後迎える計画である。

【SDGs 推進における進捗管理】

2030 年のあるべき姿に向けた事業と、既に計画されている「白山市総合計画」に基づいた各部署での事業計画の融合を図り、市全体での SDGs 事業推進の進捗を管理するために、定期的に推進本部の会合を開催する。アドバイザーボードメンバーからのアドバイスについても必要に応じて求めることとする。

会合では、総合計画の中で示される各部署の事業ごとに明確にした KPI と、本事業によって示される SDGs に基づいたゴールとの関連性を確認すると共に、KPI に基づいた事業成果の把握と改善に向けた取り組みを推進する。

(3) ステークホルダーとの連携

(域内の連携)

【NPO 白山しらみね自然学校】

市民参画による地域資源の保全と活用策の企画や事業化、エコツアーガイドの養成等を行うトータルサポート型組織として、これまで取り組んできた、自律的で持続可能な地域振興策のノウハウから、「白山ソサエティ」で実践する SDGs プロジェクトの推進をサポートする。また、「白山ソサエティ」に位置づけられる5つの山間部の地域に対して、SDGs プロジェクトの普及・展開を図る。

NPO 白山しらみね自然学校との連携を強化することで、山間部の自律的で持続可能な地域振興策を、市民参画によってすべての地域に繋げることが可能となる。

【金沢工業大学（石川県野々市市）】

本事業における産学連携の推進や市民・学生への充実した学習機会を提供し、市民参画によるまちづくりへの参画意識の醸成を図る。金沢工業大学の白山麓キャンパスは、本事業を推進する上での拠点として活用することが可能になると共に、これまでの SDGs の要素を取り入れた教育研究実績やノウハウを活用することで、白山未来都市の基盤整備から事業の実施までスピード感をもって実施することが可能となる。

また、金沢工業大学で学ぶ学生にとって、白山麓キャンパス周辺の白山ろく地域で活動することは、イノベティブな企業やポジティブな市民と共にバックキャストिंगの思考に基づいて社会課題の解決や新たな価値の創造に取り組むことが可能となり、学生自身を大きく成長させる重要な機会となる。また、教員がこれまで取り組んできた研究成果を、産学連携によって社会課題解決の要素として落とし込む機会にもつながる。

【金城大学】

金城大学看護学部が本市の山間部においてこれまで推進してきた、「やまの保健室」事業を中心に、看護学部の学生ボランティアと教員、さらには「白山ソサエティ」の実現に向けて参画する企業、市民との共創から、健康寿命延伸等をテーマとした SDGs プロジェクトの推進を図る。これまでの「やまの保健室」事業の成果を、技術的な側面やデータ活用の側面からもさらに高度に発展させることが可能となる。

【社会福祉法人 佛子園】

国内において、地方創生の先行事例として、年齢、性別、国籍、障害の有無に関わらず、さまざまな人びとと一緒に暮らせる町づくりに取り組む佛子園との連携から、SDGs プロジェクトで創出されたソリューション等を含め、「白山ソサエティ」のモデルを、白山市内に点在する地域コミュニティへと展開を図る。佛子園が有するノウハウを共有することで、スピード感をもって展開を図ることが可能となる。

【株式会社 NTT ドコモ（東京都 千代田区）】

金沢工業大学と株式会社 NTT ドコモは、「白山市 IoT 推進ラボ」を推進し、地方創生を実現するにあたっての基本合意書を平成 29 年 6 月に締結している。白山市 IoT 推進ラボにおけるメインパートナー企業としてのこれまでの連携実績を踏まえ、「白山ソサエティ」における IoT ソリューションや基盤となる IoT 通信インフラ整備(LPWA LoRa WAN 等)、さらにはこれまで他都市で展開してきた IoT 活用のノウハウや NTT ドコモのパートナー企業といったリソースを提供する。

本事業を推進する中の技術的側面において、「白山ソサエティ」の環境データや生活にまつわる

データを収集・蓄積がポイントとなる。NTTドコモ及びパートナーを含む企業の参画は、本市の未来都市を能動的に具現化する企業・市民・学生に対して、安定的に本市のデータレイクを提供し、データ分析スキルを高める学習機会やデータ活用によるソリューション創出といったメリットをもたらす。

【全日本空輸株式会社（東京都 港区）】

金沢工業大学と全日本空輸株式会社は ANA Avatar を用いた SDGs 教育の実証実験に関する連携のための覚書を平成 30 年 3 月に締結している。

本事業の技術的側面では、「白山ソサエティ」の地域特性から遠隔でさまざまな取り組みを行うことが求められ、全日本空輸が提供する ANA Avatar はロボティクスや物を触ったときの感覚を疑似的に伝える技術等を用い、離れた場所にある Avatar を遠隔操作して、あたかもそこに自分自身が存在しているかのようにコミュニケーションや作業を行うことができる技術となる。

これらを「白山ソサエティ」における実証実験のために活用することで、物理的な距離という制約を超えた次世代のソリューションの創出に取り組む SDGs プロジェクトの推進が可能になる。

【首都圏等のスタートアップ企業及び企業の新規事業部門（東京都）】

既に取り組んでいる白山市 IoT 推進ラボには、首都圏等の企業の新規事業部門やベンチャー企業を含む約 90 社の企業がメンバーとして参画している。これらの企業が本事業に参画することで、「白山ソサエティ」に目的をもって滞在する関係人口の増加を図ることが可能となり、過疎化の最大の課題である人口減少を緩和するきっかけを構築することが可能になる。また新たな挑戦へのアプローチが企業によって推進されることで、研究開発に関する新たな設備投資が期待され、地域に根差した金融機関からの支援も活性化すると期待される。

【市民及び NPO 等の地域コミュニティとの連携】

都市全体で未来都市創造に向けた挑戦に取り組むことは、解決が困難とされてきた社会課題解決への道筋が見えてくると、新たなステークホルダーを迎え入れることによる地域経済の活性化にも繋がる。市民及び NPO 等との地域のコミュニケーションは、お互いの成長を促す取り組みとなり、とりわけ、次世代を担う子供たちにとっては、最先端の技術を有する人材やクリエイティブな人材との交流が自身のキャリア形成に大きな影響をもたらす出会いとなる。

【白山手取川ジオパーク推進協議会】

本市を含む行政関連、大学・研究機関、教育・文化団体、自治・市民団体、商工・観光団体、農林水産業団体、交通関連の各組織が参画する協議会であり、白山手取川ジオパークの推進に対し協力体制を構築している。

ASEAN 諸国の大学の学生が定期的に訪れ事業を推進する際、これらの各組織や団体が一同に協力できる体制を構築することが可能となり、地域のグローバル化が加速する。同時に、白山手取川ジオパークの存在を ASEAN 諸国に発信することにも繋がり、エコツーリズムといった自然環境を活かした観光事業等の活性化が、白山手取川ジオパークを推進する地域の NPO 団体の存在価値を高め、地域経済の発展にも繋がる。

【白山商工会議所】

本事業全体において、市民参画や企業参画という点から、商工会議所に加盟する企業への普及活動を担う。白山商工会議所として、本市と共に SDGs を推進することを表明していることから、継続的な連携が可能となっている。

【金城大学短期大学部】

本市との包括的な協力協定を締結している金城大学短期大学部が推進する、女性リーダー養成との連携から、ビジネススキル修得を支援する講座等を官学連携において実施する。

(自治体間の連携 (国内))

【石川県 金沢市・野々市市】

金沢市を中心とした石川中央都市圏連携協約締結のメンバーに野々市市ならびに本市が参画している。また、本事業の推進パートナーである金沢工業大学のメインキャンパスが野々市市と金沢市の境に所在している。両自治体とも白山から広がる平野部に位置づけられる地域であり、「白山ソサエティ」から創出された健康寿命延伸や新たなソリューションのコア技術や活用ノウハウが、石川中央都市圏連携協約締結を通じて展開される。また、金沢工業大学を中心とした産学官連携が SDGs の取組と共に金沢市・野々市市にも展開されるようになる。

【石川県 加賀市・かほく市、他全国の地方版 IoT 推進ラボ選定自治体】

本市も認定されている経済産業省の地方版 IoT 推進ラボに選定されている自治体同志の連携が強化される。白山未来都市基盤整備事業では、IoT・BD・AI ならびにロボット技術を用いた社会課題解決に取り組むことから、これらの成果を地方版 IoT 推進ラボとしての連携を通じて展開することが可能となる。なお、石川県外の自治体との連携については、長崎県南島原市、愛知県幸田町、福井県永平寺町、岐阜県各務原市との連携を調整している。

【静岡県 藤枝市】

本市(旧松任市)と昭和 52 年に姉妹都市提携を締結した藤枝市は、北部は高根山を主峰とする森林地帯が続いており、南部は瀬戸川を中心に大井川下流の左岸までの南北に細長い地形であり、大部分は地味豊かな平坦地という点は、本市の地理的な環境と共通する点が多々存在する。とりわけ、瀬戸川沿いに点在する山間部の地域の在り方は、白山未来都市の現在の環境と類似し、防災面やスポーツ文化振興の面での連携実績を踏まえ、未来都市の成果を地理的な側面から横展開することが可能となる。

【富山県南砺市、福井県大野市、勝山市、岐阜県高山市、郡上市、白川村】

本市が事務局を務める白山ユネスコエコパーク協議会に参画する富山県南砺市、福井県大野市、勝山市、岐阜県高山市、郡上市、白川村との継続的な連携を図る。白山頂周辺の高山帯や亜高山帯を核心地域、それを取り囲む広大なブナ林を緩衝地域、その周りに広がる山村を移行地域が連動する白山ユネスコエコパークの協力体制は、「白山ソサエティ」の実装によって創出された仕組みや機能を展開する対象となり、SDGs の取り組みの普及促進につながる。

【石川県】

石川県商工労働部との連携から、県内企業の総務部門等を対象とした、2018 年 10 月にデータ活用推進のための学習機会を、金沢工業大学の協力を経て実施する計画をし、白山市内に所在する企業の積極的な参加を計画している。

【石川県中央広域圏男女共同参画推進協議会】

金沢市、白山市、野々市市、津幡町、内灘町、かほく市との共同で、男女共同参画推進の普及活動を実践し、今後は技術的なスキルアップについても計画していく。

(国際的な連携)

【ジオパークによる連携】

ドイツ ヘッセン州 ラウンハイム市

白山ろく白峰地域にある桑島化石壁を世界に紹介したドイツのヨハネス・ユストゥス・ライン博士の功績から、ライン博士の生誕地ドイツ・ラウンハイム市との友好都市を締結している。2018年4月には、国際シンポジウムを開催する計画である。ライン博士との接点が、ライン博士を研究しているイギリスロンドンの研究者や、ロンドン自然史博物館の研究者等新たな海外の研究者との接点を継続的にもたらしている。

【CDIO 加盟参加国との連携】

工学教育の事実上の世界標準となっている CDIO に加盟する 36 か国、130 以上の高等教育機関との連携を促進する。ここ最近では ASEAN 諸国の大学の加盟が加速している。「白山ソサエティ」と金沢工業大学の白山麓キャンパスを連動させた市民、学生、企業が参画する「SDGs プロジェクト」の活動が可能となり、取組成果を継続的に CDIO 加盟国に対して発信することで、大学と自治体による SDGs を推進する地域への展開を図ることが可能となる。

【香港】

香港ジオパークを推進する団体との交流プログラムとして、香港の中学生が毎年6月に白山手取川ジオパークに訪れ、金沢工業大学及び国際高等専門学校の学生との交流プログラムを実施する。ユネスコの世界ジオパークに認定されている香港ジオパークとの交流を通じて、白山手取川ジオパークの世界認定を目指すためのノウハウ等の共有を図る。

【金沢工業大学及び国際高等専門学校における ASEAN 諸国の連携大学】

金沢工業大学、国際高等専門学校、シンガポール工科大学、越日工業大学、泰日工業大学、マラ工科大学等との連携により各国の学生が集い、本市の社会課題に対して現地滞在型による課題解決プログラムのラーニングエクスプレスを実践する。これによって、大学間連携を軸とした各大学が所在する都市との連携へのアプローチが可能になると共に、自治体＋大学による SDGs の取組モデルを ASEAN 諸国に対して発展させることが可能となる。

白山市 SDGs 未来都市計画

平成 30 年 8 月 第一版 策定

SDGs 未来都市計画

白山の恵みを次世代へ贈る 「白山市SDGs 未来都市2030ビジョン」

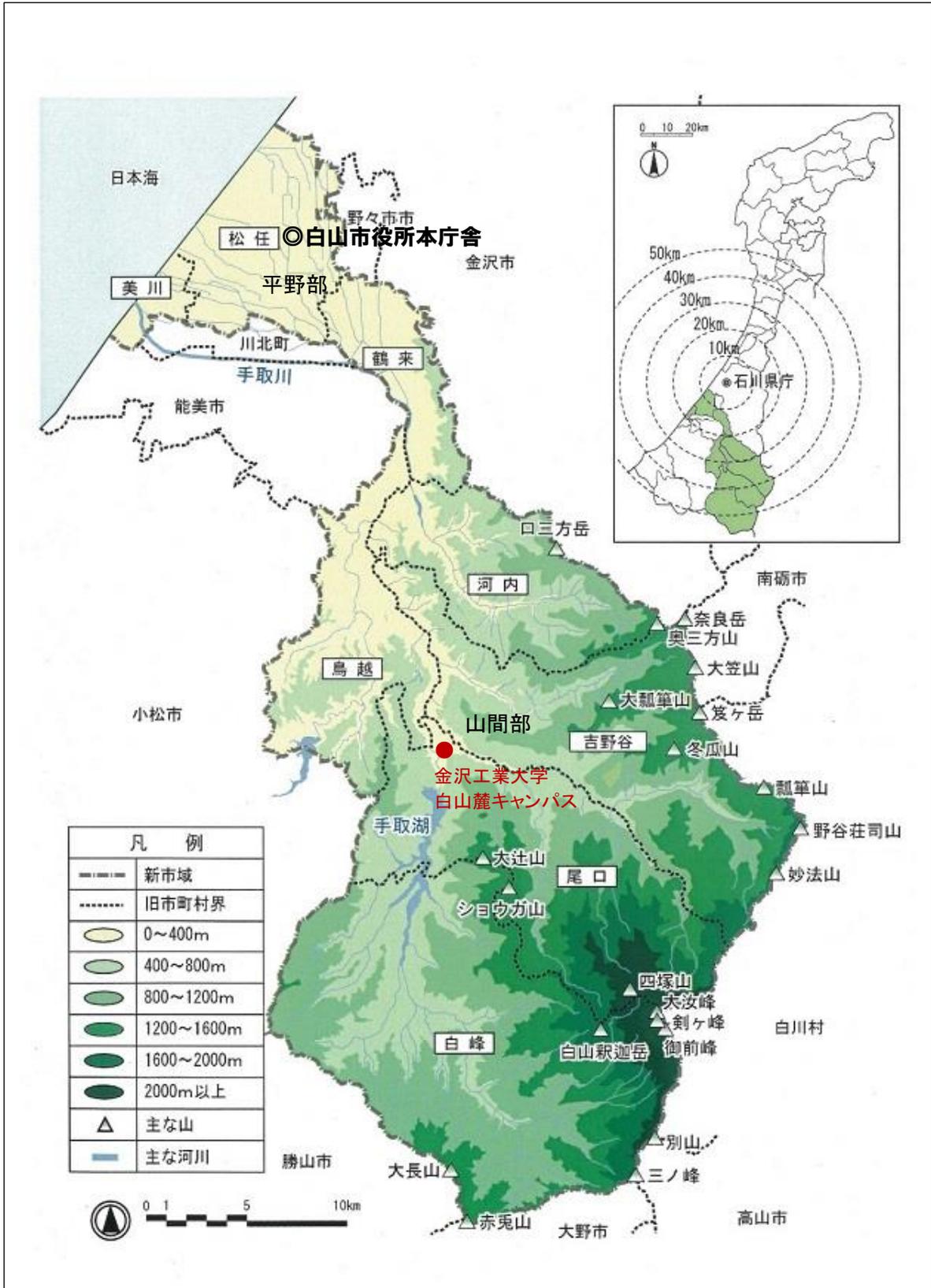
参考資料の一覧（目次）

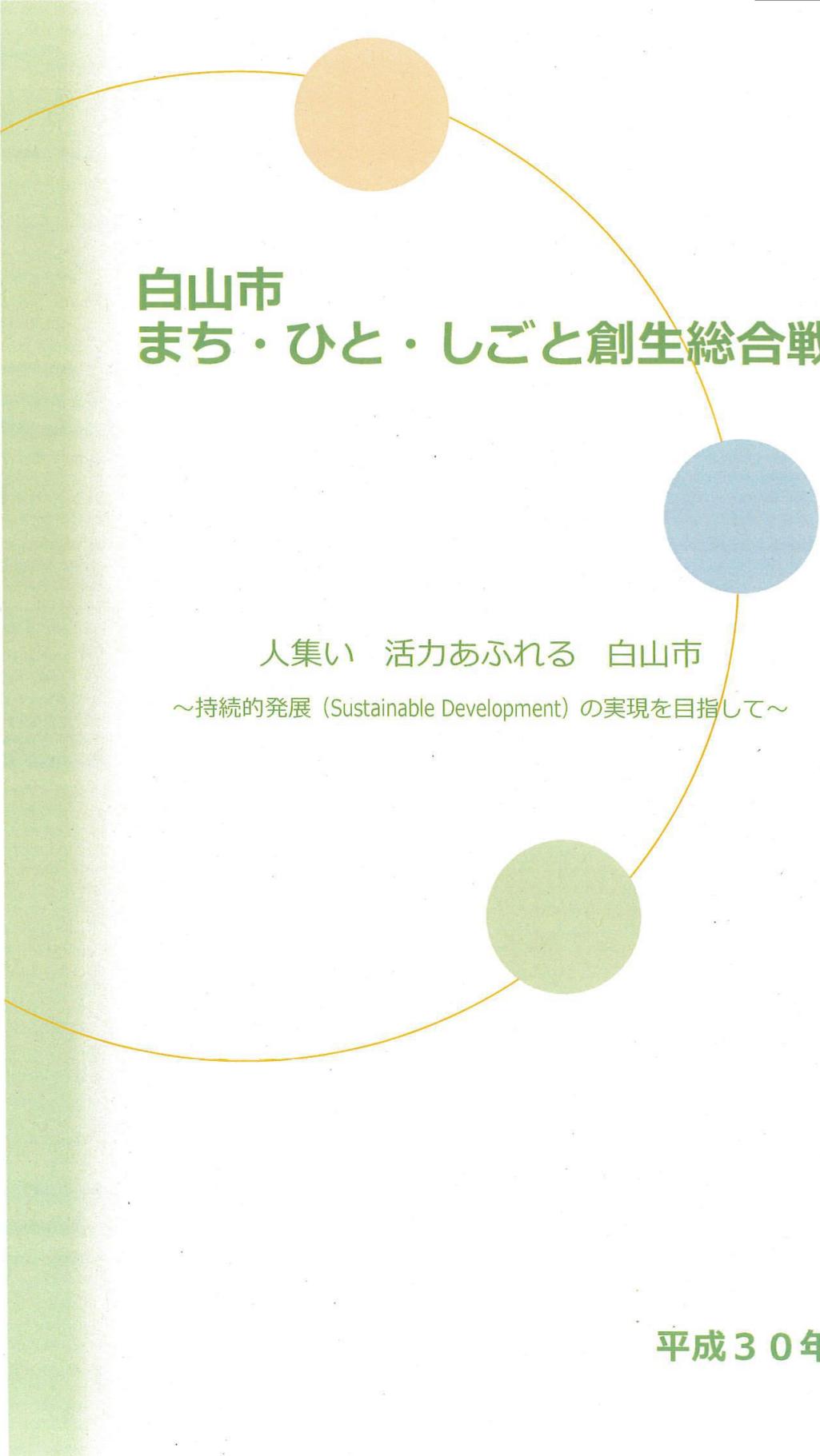
参考資料 1 … 白山市位置図

参考資料 2 … 第2次白山市総合計画の施策体系とSDGs 17の目標

参考資料 3 … 白山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（抜粋）

白山市位置図





白山市 まち・ひと・しごと創生総合戦略

人集い 活力あふれる 白山市
～持続的発展 (Sustainable Development) の実現を目指して～

平成30年8月改訂

1. 総合戦略の位置づけと役割

1) 計画策定の背景・目的

本市は、平成17年2月1日の合併により誕生し、平成19年3月に「第一次白山市総合計画」を策定し、将来像である「豊かな自然と共生する自立と循環の都市 ～ 白山から日本海まで 交流・連携そして協働による活力あるまちづくり ～」の実現を目指し、様々なまちづくり施策を展開してきた。

一方、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本を維持することに国を挙げて取り組むとする「地方創生」の考え方が示された。

本市では、これらの基本的な考え方や国が示す政策5原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）を踏まえ、「白山市人口ビジョン（以下、人口ビジョン）」及び「白山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）」を策定することとする。

本市の総合戦略は、中長期的な将来展望を見据えつつ、具体的かつ実効性のある施策・事業を展開することにより、「まち」「ひと」「しごと」を創生することで、人口減少や少子高齢化の進行による地域経済や地域社会の縮小を克服することを目指しており、国連が提唱する「SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）」と合致するものである。このSDGsの理念に基づき、これらの取り組みを進めることにより、SDGsの実現を目指すものである。

2) 計画期間

本戦略の計画期間は、平成27（2015）年度～平成31（2019）年度の5か年とする。

